

## 木漏日になつて小分けをする冬日

小林英昭

優れた作品には驚かされる。発想や表現に見たことのない斬新さと詩がある。「木洩れ日」が「冬日の小分け」したものとは感動した。



## いわし雲目から綺麗な鱗落ち

金城正則

「眼から鱗」という表現をうまく使いましたね。語源は聖書の中の故事にあるそう。今は日本語の中にすっかり馴染んでいるね。



## あらばしり一言居士がしゃしゃり出る

青木輝子

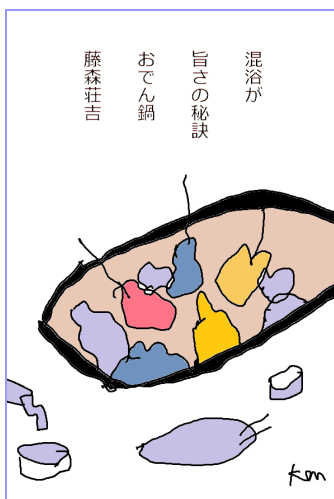
「新走」は新酒のことで、秋の収穫が終わりその新米で早速に作った酒のこと。もっともらしきひと事を聞いてからやっとな酒を飲むことに。



## 柿吊すたんびに腰のストレッチ

森岡香代子

人間の体は不思議なもの。柿を吊るしたら腰痛が治癒。事実なら吊るし柿効果として学会で発表せにやいかん。貧乏ゆすり  
で膝痛改善とかも。



## 混浴が旨さの秘訣おでん鍋

藤森荘吉

混浴が旨さの秘訣だったとは知らなんだ。混浴の後、ぼたん鍋では猪突猛進になり、さくら鍋では蹴飛ばされてしまうかも。



## ちらちらは冬日の癖やガラス窓

山本 賜

冬の日を擬人化するという難しい技法ですな。美しいプラスの景を「ちらちらさせる癖」としてマイナス表現にしたのも実に巧みである。